

なくてはならない 里親の会

私が里親に登録したのは今から35年前、38歳の時でした。実子はいましたが、昔から里親には強い関心があり、理容師として働きながら、まずは養育里親として、1カ月とか3カ月とか短期でずいぶんたくさんの子どもを預かりました。そのうち縁あつて、養子縁組した子もいます。

里親に関心があつたのは、私自身の幼少期の体験にあります。両親が共働きでいつも帰りが遅く、子どもの頃はよく近所さんにおにぎりを作ってもらふなど、とてもかわいがつてもらいました。人から受けた恩と、いつのまにか忘れられないもので、だから今度は私が、かつての私のような子どものために、その面倒を見てあげればよいと思つたのです。

平成21年には、市内の里親たちと一緒に「石狩里親の集い『ミナミナ会』」を結成しました。「ミナミナ」はアイヌ語で「みんなニコニコ」という意味があるそうで、15年目を迎えた今も、その名の通り笑顔の絶えない会だと自負しています。

会を結成したのは、里親を管轄する北海道中央児童相談所から要請があつたから。せつかく立ち上げるなら、と会規もつくつて会長・副会長を定め、会費を徴収しながら長く存続

できる組織を目指しました。振り返ると、これは本当によつて良かったと思つていて、例えば里親たちが全道各地から集まる大会などもあります。が、そういう会では日頃抱える心の中の詳細なことなど聞いてもらえませんが、ましてや初対面の方にどこまで話せるか、とても難しいと思います。その点、2力月に1度開くミナミナ会の定例会なら、何でもざつぱらんに話せます。同じまちに暮らす仲間同士、共に考えたり、泣いたり、笑ったり。それだけで気持ちがとても楽になるのです。隣の市から里親さんが来ることもあったり、地域の方に声をかけ、たとえ里親でなくても参加してもらうこともあります。とにかく、参加者は一人でも多い方がいい。なぜなら、里親にはたくさん理解者が必要で、それが子どもたちを守ることにつながるからです。



設立当初、会員同士の結束と市民への周知を兼ね作成したミナミナ会の広報紙。活字から当時の熱い思いが伝わります。

特集

石狩に暮らす
里子と里親たち

2

ミナミナ会の願い。

「石狩里親の集い『ミナミナ会』」の中谷孝幸会長が、自身の里親になったきっかけや、日々感じることなどを「市民の皆さんにも聞いてもらいたい」と語ってくれました。

石狩里親の集い
ミナミナ会 会長
中谷孝幸 さん

里子は特別ではない、
普通の子ども

昨年、ミナミナ会のメンバーと「市長室開放」に行きました。理由は石狩市にもっと里親を増やしたい、そして里子のことを市民の皆さんにもっと理解してほしい、そんな思いを市長に聞いてもらいたかつたからです。

また、このように広報紙でも取り上げいただきました。その紙面を借りて私が一番お伝えしたいこと——それは、私たちの預かる子どもたちが決して特別ではない、ということ。想像してみてください。ある日突然、両親が亡くなった、病気になった、大けがをした……そんな時、皆さんのお子さんが絶対に里子にならないと、果たして言い切れるでしょうか。ぜひ、これからほそつという想像を働かせながら、里子たちを見守ってほしいのです。

先日、ミナミナ会の定例会で、会員の一人が町内の方から「ちよつと見ない間にずいぶん大きくなつたね」と里子

38歳から養育里親に登録。60歳の時、「ファミリーホームいしかり」（児童5〜6人の養育を行う里親型グループホーム）をスタート。また、ミナミナ会の会長として仲間たちと共に焼肉会やレクリエーションを企画。「いろんな方に参加してもらいたい。里親制度を知るきっかけにしてもらえれば」と呼びかけます。

問 ファミリーホームいしかり
☎ 77・5027

に声をかけてもらったと、うれしそうに話してくれました。その子は足が不自由なため、胆振東部地震の際も近所の方が心配して駆けつけてくださったとか。本当にありがたい話です。

一方で、思いもよらないことを言われ、私たち里親も傷つくことがあります。でもそんな時、それ以上に傷つくのは子どもたちです。ただでさえ心を痛めることが多い中、せめて私たちの家にいる間は、気持ちよく暮らせてあげたい。これはミナミナ会全員のささやかな願いです。



石狩里親の集い ミナミナ会の皆さんに 本音を聞きました

「ミナミナ会」はどんな存在？

- 相談できる場。皆さん優しく、安心できます。
- 里親としての日常の苦労を話し合ったり、悩みを聞いてもらい、経験談を教えてもらう、なくてはならない大切な場所。助けてくれる人がいると思える居場所。里子ちゃん同士のつながりの場。
- 里親さんの孤立を防ぐ場所、何でも言える場所。
- 皆さんと情報を共有でき、語り合い、分かり合える、安心できる場所です。
- 何でも安心して話すことができ、共有、共感が共にできる場所です。
- 里親同士の交流と里子同士のつながりも持てる、他の里親さんの経験を聞くことができる、児童相談所や石狩市と里親が知恵を出し合い話し合いができる場所。

市民に知ってほしいこと、伝えたいこと

- 地域の中で子どもは育つので、ご近所や地域の方の理解はとても助けになります。私の町内会では、小学校入学時にお祝い金をもらえるのですが、今年からその規約に親族に限らず同居家族という項目が増えていました。地域に見守られているように感じて感謝しました。
- さまざまな事情で親元で暮らせない子どもたちがいることを想像し、理解し、知ってほしい。里親制度を知ってほしい。どのような事情を抱えている子ども、安心・安全を感じて生活できる環境づくりをみんなでしていきたいです。
- 里子も普通の子どもだということ。多様性を認めて、差別しないほしい。
- さまざまな事情で困っている子どもたちがいます。確かに子育ては大変なことが多いかもしれませんが、それ以上に一緒に成長できる喜びは何事にも代えがたいものだと思います。市や児童相談所、仲間の里親さんもサポートしてくださるので安心です。
- 里親は愛があれば、子どもと同じ方向を向いて認め合うことです。子育てに参加してください。

- 社会的養護について、特に社会全体で子どもを育むという考え、里親制度について、なぜ里親が必要か、特に乳幼児の家庭養育優先について一緒に考えてほしい。

◀ 里子は里親の加入する健康保険に加入できません。そのため、児童相談所が「受診券」を発行します。写真は裏面。医療機関の皆さんにはぜひ、こちらも併せて読んでいただければ。

里親に登録しようと思った きっかけを教えてください

- 以前からやりたいことでした。50を前に今しかないと思い、勇気を出して動きました。
- ニュースで生後間もない乳児の悲しい事件をみると、心が痛み、子育てのお手伝いをさせてもらおうという気持ちで養育里親登録を考えました。
- 子どもの頃、養護施設のテレビドラマを見て、大人になったら子どもたちの力になりたいと思っていた。
- 子育てをしたかったからです。
- 子育てが一段落したら養育里親になりたい、が人生の目的でした。両親が、困っている人たちに手を差し伸べていたことも影響している。
- 知人に里親がおり、勧められたから。

里親としてどんな時に 喜びを感じますか？

- 子どもが家族の中でわがママを言ったり、ふざけたり安心しているのを見る時。
- 里子ちゃんが安心して生活している、笑顔で生活しているのを見て。
- 子どもたちが、少しずつ良くなって行く瞬間を体験できること。
- 現在、預かっている子は重度の障害があり、生活の全てにおいて介助が必要ですが、本人が頑張って、少しでも自分でできることが増えた時は、大きな喜びを感じます。
- 子どもの笑顔が出た時。自分の気持ちを言葉にできた時。
- 里子の成長を感じる時、里子の笑顔を見られる時。

里親の苦労とは？

- 児童相談所や里親会に出す書類などの作成に、忙しい中で時間を取るのが大変に感じた。
- 実態告知。実親さんのことを伝えること。学校の先生との関係づくり。里親家庭への理解不足を感じる。
- 親だと思って一生懸命やっても、里親には子どもの代理権と親権がないこと。
- 体調を崩し病院から入院を勧められた時、実親からの許可がもらえず、時間を要したこと。
- 周りに心ない言葉で聞かされたとき。
- 家族のように過ごしていた里子が家庭復帰した時に安堵すると同時に、喪失感を経験すること。里親と里子の関係性を地域に理解してもらうこと。

医療機関の方へ（お願い）

本日受診しました児童は、児童福祉法による児童に委託されている子ども（里子）です。里親が里親として呼ばれる際には、里親さんの求めに応じて、里親さんの名字で呼ぶ等の配慮をお願いいたします。

なお、医療費の請求手続きについては、すでに児童福祉法に基づき、児童相談所が児童の医療費の負担に配慮しています。次の点に留意をお願いいたします。

★受診の際に窓口で提示する児童の健康保険証「児童」の欄に「児童相談所（児童相談所発行の児童の健康保険証）」と記載されている場合は、児童相談所が児童の医療費の負担に配慮しています。児童相談所が児童の医療費の負担に配慮しています。児童相談所が児童の医療費の負担に配慮しています。

（裏面へつづく）